

事務事業名	市営墓地管理事業				担当	産業環境部 環境課 環境保全係			
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり				電話番号	0285-83-8125		
施策名	06	良好な環境づくりの推進				<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ			
法令根拠	真岡市墓地条例					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和49 年度～）			
予算科目	1.一般会計	4.衛生費	1.保健衛生費	1.環境衛生費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	公衆衛生の向上と公共の福祉の増進を図る必要から、昭和49年度に熊倉墓地、平成元年に長田霊園の両市営墓地を整備した。本事業の主な業務は、使用申請受付、使用許可、各種届出受付、使用料及び管理手数料の徴収、敷地の維持管理である。 なお、申込受付は、長田霊園については随時行っているが、熊倉墓地については、返還分のみとなっていることから年1回の公募により行っている。 【区画数】 熊倉墓地：412区画 長田霊園：1,422区画 合計：1,834区画								

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 23年度実績 ・申込受付、使用料及び管理手数料の徴収 ・草刈り等維持管理 24年度計画 平成23年度と同様	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称		単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア	市広報掲載回数	回	1	1	2	2	2
	イ	使用許可件数	件	30	36	45	42	40
	ウ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 市営墓地を必要とする市民 市営墓地	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称		単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア	造成区画数	区画	1,834	1,834	1,834	1,834	1,834
	イ	未使用区画数	区画	307	281	239	207	167
	ウ	市民	人	66,712	82,997	82,584	82,126	81,511
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 墓地を必要としている市民の生活環境を整える。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称		単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア	使用許可区画数	区画	1,527	1,553	1,595	1,627	1,667
	イ	許可率	%	100	100	100	100	100
	ウ							
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 市民の生活環境の向上	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称		単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア	使用許可者数	件	1,527	1,553	1,595	1,627	1,667
	イ							
	ウ							

(2) 総事業費の推移		単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	4,565	4,999	5,557	5,717
	一般財源	千円	0	0	1,033	1,279	
	事業費計(A)	千円	4,565	4,999	6,590	6,996	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	2	2
		延べ業務時間	時間	528	528	588	588
		人件費計(B)	千円	2,206	2,142	2,510	2,494
トータルコスト(A)+(B)		千円	6,771	7,141	9,100	9,490	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	都市化、核家族化等の社会状況の変化に伴い墓地を必要とする市民が増加し、生活環境の整備を図るため昭和49年度に市営墓地を整備した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	区画整理事業や合併による新たな希望者の増加など、今後も市営墓地を必要とする市民の需要が増えるものと考えられる。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	熊倉墓地は傾斜地を利用して造成されており、高齢の利用者からは墓参りに行くのが大変だとの声がある。また、今後、無縁者の墓地が発生することも予想されるので、合祀施設等の整備を図ることを検討する必要がある。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 墓地の経営は法令上、地方公共団体又は宗教法人が行うものであり、墓地を必要とする市民に対し、良好な墓地を適切に供給できることにつながるから結びついている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市営墓地の管理業務であることから妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 墓地を必要とする市民に対し、公衆衛生に配慮した市営の墓地を供給することは、生活環境を良好なものとするに役立つことから適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 墓地を必要とする市民のニーズに応えていることから向上余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 市営墓地の管理であり、休廃止はできない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？ ・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限度の経費であり、削減余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限度の人件費であり、削減余地はない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 使用者に対し、使用料及び管理手数料を徴収しており、応分な負担を求めていることから公平、公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							